

# 進歩性判断の「構造」を動かす：技術常識等の実務活用ガイド

## 認定ドライバー (ステップA/B)

用語解釈や構成把握により、本件発明および引用発明の「入力」を確定させる機能です(例：光フェルール事件での用語解釈)。

## ステップC：動機付け(引用用例ありの場合)

周知課題や社会的要請をブリッジとして、発明への結合を推論する。

## 設計事項ゲート (ステップD)

数値範囲の最適化や公知分布に基づき、発明が単なる「設計事項」に留まるかどうかの閾門を制御します(例：土木不織布事件)。

## ステップE：阻害要因・予想外の効果

「当然の前提」や規格が、変更を妨げる理由(または妨げない理由)になるかを検討する。

## 発明の認定：発明の認定

技術常識を用いて用語の意味や構成を特定し、比較の土俵を整える。

## 推論ブリッジ (ステップC)

引用発明と副引用例を「課題共通性」などで結びつけ、適用・動機付けを成立させる架け橋となります(例：燃焼器事件)。

## 進歩性判断の結論

## ステップD：設計事項性(副引用例なしの場合)

公知の数値分布や予測可能性に基づき、通常の創作能力の範囲内かを判断する。

## 制約・反証ドライバー (ステップE)

JIS規格や業界の当然の前提を背景に、阻害要因の有無や予想外の効果を判定する制約条件となります。(例：鋼管矢板事件)

## 6つの裁判例に学ぶ実務の教訓



### ①土木工事用不織布

動かした段階：D(設計事項)+E

主要な教訓：仕様遵守(阻害要因)は、振報告請発という連発の行動の前では否定されやすい。



### ③燃焼器及びボイラ

動かした段階：C(動機付け)

主要な教訓：社会的既論(CO<sub>2</sub>低減等)は強い推論の柱になる。



### ②ビークル

動かした段階：C(動機付け否定)

主要な教訓：根拠のない「周知」の言い切りは、証拠欠倒として崩れるリスクがある。



### ④木質複合材

動かした段階：D(数値最適化)

主要な教訓：「一般別(定性的関係)」と「数値分布(別表)」の二段備えの攻撃が有効。



### ⑤光フェルール

動かした段階：A/B(認定)

主要な教訓：図面からの批判に技術常識を加えると、構成の「必然性」が立ち、相違点が消える。



### ⑥鋼管矢板式係船岸

動かした段階：D/E(設計事項否定)

主要な教訓：JIS規格等の「当然の前提」は、数値付けを否定する強力な認拠になり得る。

## 主張・立証のチェックリスト

✓ 「周知」は認定と推論を分離する  
周知技術の「存在」だけでなく、そこから導かれる「課題共通性(推論)」にも客観的な根拠資料を準備すること。

✓ 数値範囲は「分布」と「予測」で攻める  
公報等の数値一覧(別表)で分布の偏りを示し、効果が予測可能であることを定性的・定量的に立証する。

✓ 証拠は「最短経路」と「網羅性」  
用語認定には基本文献を最短でつなぎ、数値分布には恣意性を排除した網羅的な抽出基準を開示する。